

生ごみ自家処理 こうしてなめています！

新シリーズ
スタート！

江戸川区
生ごみ堆肥化
実践クラブ

代表世話人 佐藤正兵



3回シリーズの講習で 生ごみ堆肥化を確実に

当クラブは江戸川区を中心に、家庭から出る生ごみを堆肥化して、花や野菜を育てようと広く区民に呼びかけて活動しています。始まりは2001年から3年間、江戸川区が「生ごみリサイクル実践モニター」を募り、それに参加したメンバーを中心に2003年9月に結成しました。

翌年から江戸川区からの受託事業として生ごみリサイクル講習会を開始、2005年からは春秋4会場(1会場連続3回)の講習会を継続しました。また、出前講座や1回だけの夏と冬の講習会を含めると受講者は1000名を越えました。

家庭の生ごみを可燃ごみとして出さずに堆肥化すると、江戸川区のごみ処理費用が、概算で1戸あたり年間11,000円も節減できることがわかり、これまでの1000人を超える受講者全員が堆肥化を実践すると、年間約1100万円も節約できることとなります。

江戸川区の大部分の住宅は、集合住宅や戸建でも庭のないお宅で、ベランダや軒下でも生ごみ堆肥作りが可能なように、講習では「発泡スチロール箱やプランターなどを使った堆肥作り」の方法を教えています。

また、1回だけの講習では堆肥作りをうまく継続できない場合が多いために、3回シリーズで実施しています。

第1回は堆肥化の理論と実施方法の説明、必要な材料(腐葉土やボカシ=米ぬかで作る発酵促進材)を配布し、1カ月後の第2回で、作成中の「マイ堆肥」を持参していただき、参加者相互の意見交換を含めて講評し、さらに1カ月後の第3回では、マイ堆肥の評価に加えて野菜作りなどの楽しさを伝え、受講者が堆肥作りをずっと続けられるよう配慮しています。

野菜くずやお茶柄など家庭から出る生ごみは、堆肥化すれば貴重な有機肥料になります。野菜や穀物は全て土から生まれ、家畜もその植物を食べて育ちます。土から生まれたものは土に還すことで持続可能な循環型社会が実現されます。



会のホームページ <http://www.ikigomi.jp/>